



一の橋バイオビレッジの暮らし方

一の橋バイオビレッジは、《共通の意識》《暮らし方》《エネルギーの省力化》を実現化したエネルギー自給100%を目指すプロジェクトです。

地場産材を活用すること、
住宅性能水準を上げること、
暮らし方をシェアすることより、

一の橋バイオビレッジに必要なエネルギー量を縮小させ、余剰熱を利用した温室の利用や新しい産業と新しい雇用の創出等を含めた、まち全体の自給率100%を目指します。

エネルギー供給の考え方

一の橋バイオビレッジのエネルギー供給は、《熱供給施設（仮称）》チップボイラー2基を稼働してコレクティブハウス群、住民センター、コミュニティセンター、山びこ学園へ供給されます。

暖房・給湯の供給

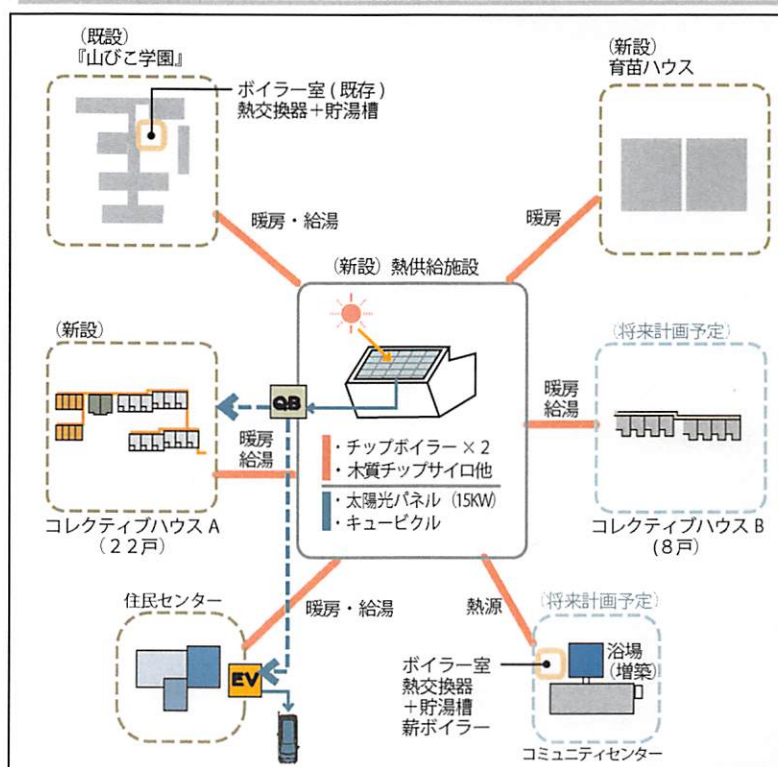
- 夏場、冬場の利用状況に応じた運営を行います。
- 木質チップサイロは、2つに分け、非常時のバックアップにも機能します。
- [暮らし方のシェア]による熱源の余力を生産温室で有効活用し、新しい地域産業を生み出します。
- 災害時は、住民の滞在場所をコミュニティセンターに集約させ、最小限のエネルギーによる運営を行います。

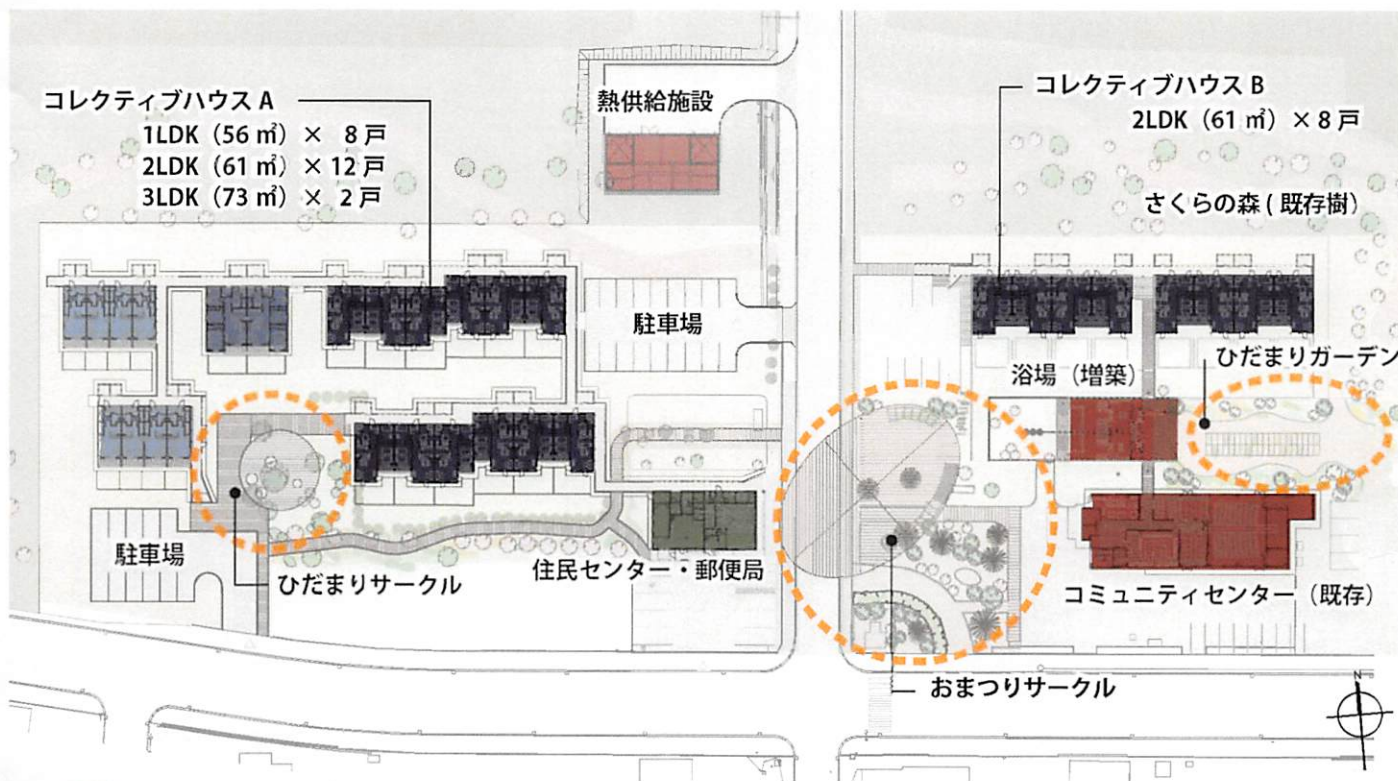
電力の供給

熱供給施設の屋根には、太陽光パネルを設置します。太陽光パネルから生まれる電力は、各住戸への電力供給、EV車充電スタンドへの電力供給へと接続します。

下川町として、将来的に自然エネルギーをメインとした電力供給を目指します。

バイオビレッジ＝暮らし＝コミュニティ “シェアリング” の暮らし





建物の配置、住戸の配置について

集住化された住戸群 [コレクティブハウス A・B]、住民が集う安心、安全を守る拠点 [住民センター (郵便局併設)]、これらの住戸群と近隣地域に熱源を送る [熱供給施設]、既存のコミュニティセンターに併設される [浴場施設] で構成されています。(全て木造)

各施設は冬でも安心してアクセスできる屋内化された廊下でつながり、【ひだまりサークル】、【おまつりサークル】、【ひだまりガーデン】が、住民同士のつながり、外からのつながりを結ぶ、一の橋バイオペレッジの暮らしの輪を創ります。

住戸プランについて

[コレクティブハウス A]

一団の敷地に 5 棟に分けて全戸南向きに配置されたコレクティブハウス A・22 戸は、バリアフリーやプライバシー等に配慮し、屋内空間の通路によって繋がっています。

●建物の屋根形状について

住棟間への落雪を抑える形状として、緩やかな屋根勾配とします。(※雨は落ちるが、雪は落ちない形態)

建物の構造材・仕上材について

- 木造構造材はもとより、外部・内部仕上材も含めて、極力下川産・北海道産の木材を使用しています。
- 外部壁・内部壁等は板貼を多用し、ヨコ貼・タテ貼、又、塗装の使い分けをしてデザインに変化をもたらしています。

〈住戸プラン〉

[2LDK・3LDK]

二つの寝室は、可動家具で仕切られており、入居者によって、子育て等成長過程によってフレキシブルに空間を利用できます。

[1LDK]

メゾネットタイプ。西端に面しており、一の橋バイオペレッジのシンボルとして特徴的な屋根形状を持ちます。



〈断面プラン〉

